

「資源循環・エネルギーミニマム型システム技術」第1期採択課題の終了に際して

研究総括

平 田 賢

研究領域「資源循環・エネルギーミニマム型システム技術」は、大量資源浪費型の社会を是正し、持続的発展を可能とする社会を構築するために有効な、システム技術を開発することを目的とした。具体的には、産業から民生用に至るまで、地球温暖化ガスの放出を最小限に抑えながら、発電、物質創成などの目的を達成する技術、生体機能を利用しながら水素などのエネルギー源を創り出す技術、温暖化ガスの固定・分解に関する技術、などに関連する総合的なシステム技術の研究が進展することを目指していた。平成10年度に最初に採択された5件の研究チームが、5年の研究期間を終了し、ここに無事、最終報告書をまとめることが出来たことは、研究総括として心から嬉しく思っている。

それぞれのチームが発表した論文数と特許申請数を見ると、小久見善八(京大):「エネルギーの効率的変換を目指した界面イオン移動の解明」チームが論文101編、特許4件、小名俊博(九大):「高リサイクル性を有する森林資源の開発」チームが論文53編、特許3件、福田正己(北大低温研):「温暖化ガスにかかわる永久凍土攪乱の抑制技術」チームが論文71編、馬越 淳(農業生物資源研):「エネルギーミニマム型高分子形成システム技術の開発」チームが論文60編、特許5件、山田興一(信州大):「乾燥地植林による炭素固定システムの構築」チームが論文39編、特許1件と客観的データで見ても、順当な成果を挙げたといえよう。成果の詳細はこの報告書で見て頂きたいが、この間、当研究領域のアドバイザーの先生方には、研究課題の採択に始まって、中間評価、事後評価、領域シンポジウムなどを通じて親身のご指導を賜った。また、宍戸一陽技術参事をはじめとし、機構本部事務局並びに当領域事務担当の各位の強力な支援のおかげで全てのチームが遅滞なく研究を遂行できたことは特筆に値する、深く感謝したい。